

すべての子どもたちが大切にされ 安心して学べる教育を実現しよう

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合



ホームページ

第38回大阪の障害児教育を よくする会総会

6月14日、大阪の障害児教育をよくする会総会が開催され、会場とオンライン合わせて42人が参加しました。2026年度の活動方針・予算案・総会アピール・役員体制が承認されました。学習会では、播本裕子さん（障害者）（児）を守る大阪連絡協議会代表幹事・大阪障害児・者を守る会会長が、「息子の飛び立つ姿を夢見ながら子育て、親育ち」と題して講演をおこない、参加した父母・教職員らで学び合いました。

よりよい教育をめざして力をあわせよう



あいさつする大西会長

会長の大西悦子さんは、開会あいさつで、「新校整備を求める署名活動のなかで、多くの方に現状を知ってもらった活動を通して、小さな声が大きな波となり、議会を動かして支援学校整備を求める意見書採択につなげた。私たちの運動で子どもたちの成長発達を保障する教育が前進するよう、運動をすすめてみましょう」と呼びかけました。

来賓の石川たえ府議会議員

各地域のとりくみ・交流では、「支援学校の新校整備を求めて地域の支援学校長と懇談をすすめている」「父母のねがいを束ねて、府や市と交渉し、教育の充実を求めている」「20年以上前から『過大・過密』が深刻で運動が続けている。新校整備は待ったなしの課題」「小中学校では

精神的な「じりつ」をめざして

後半の学習会では、播本裕子さんに講演いただきました。播本さんは、自身の子育てで大切にしてきたこととして、「じりつ」をあげ、具体的なエピソードを交えながら、重い障害のあるたけちゃん（「じりつ」について、そして、子の育ちとともに親の育ちについて語りました。

たけちゃんは多動で毎日「行方不明」になり市外の警察でも覚えられるほど有名でした。「行方不明」なっても自分で帰れる子になっ

てほしいという思いで、「絶対に怒らない」と決め、「会いたかったよー!」と抱きしめて迎えました。また、家族以外の介助も受けられるように4歳からジョー



子育てで大切にしてきたことを語る播本さん

子どもも先生も余裕がない。教育条件整備を」など、父母や教職員のさまざまな思



講演に聞き入る参加者

（自律）をめざして、自己決定できる力をつけるなど、気持ちの育ちを大切に子育てしてきました。

播本さんは講演の最後に、「自分のことが好きで自分に自信をもてるよう、否定されない生活が大切」と述べ、なにかに挑戦し、失敗したとしても「挑戦したこと」を評価し、失敗しても立ち直れる「いい形での失敗の経験」を積むことで、自ら「やった!」と思える経験を太らせることができると語りました。そして、自分の弱さもあり、自分のできないことに支援を求める力をつけ、「上手に依存しながらじりつ」をと結びました。

いや地域でのとりくみが報告されました。

大阪府立障害児学校教職員組合 大阪市天王寺区東高津町7-11 府教育会館704号 TEL 06-6765-8904 FAX 06-6765-8905

書記局の ひしひし

吉村大阪府知事は、来年の統一地方選と同日に3度目の「住民投票」を実施し「大阪都」に突き進む構えです。2度目の住民投票の敗戦の弁で「政治家として挑戦することはない」と言ったのでは、怒りを通り越してあきれてしまっています。

「都構想」のねらいは大阪府を廃止し特別区に分割して、政令市が持つ権限と財源を府が吸収すること。ひとりの指揮官のもとでカジノや湾岸開発など不要不急の巨大開発を進め、規制緩和などと合わせて大企業・財界の更なる支援するのが目的です。分割された「特別区」は市町村よりも税収が約5割も減り、都市計画の権限もないなど、「半人前の自治体」となり、公共サービスを維持・拡充することが困難に。

維新は今回、「副首都大阪には大阪都がふさわしい」などと言って「副首都」の名で「都構想」の実現を企てています。しかし、「副首都」は、首都機能のバックアップがねらいで、大阪府を廃止する必要はありません。

各紙の社説も、「都構想と副首都 姑息な手段重なるのか」（朝日）、大阪都構想は奇策を弄するな（日経）、「維新の『奇策』に違和感が残る」（読売）など、厳しい声が続出しています。

また、吉村知事が住民投票の対象を大阪府民に広げようとしていることも大問題です。「大阪府廃止」を市民以外の住民が決めることは、地方自治の否定で憲法違反との指摘も上がっています。

住民投票を通すために①地方選と同日に、②住民投票の対象を大阪府民に広げ、③「都構想」とは別物の「副首都」持ち出しでまやかすなど、手段を選ばません。

やるべきは大企業・財界支援の「大阪府廃止」ではなく、くらしを応援する政治の実現です。3度目の住民投票はまっぴらごめんや、許さんで。



「楽しい職場に！」

藤井寺支援分会 山本 清志

どうも！今年度から藤井寺支援学校でお世話になっています。環境が変わり不安もありましたが、ステキな同僚ばかりで楽しく働いています。感謝です。組合に関しては、入ってから2年ほどになり、いろいろな先生方と話す機会が多くなり、学部を越えてつながりができました。基本的に楽しく仕事をしていますが、些細な悩みもありつつ、気軽に話せるようになりました。大変だと感じることもあります。楽しい職場にしていきたいと思います。

私たちの職場は、子どもたちの命と成長を支える尊い場所である一方、人手不足や賢者システムやタブレット

は、「集まれば元気、語



教職員が心身ともに健康で、笑顔でいられる環境が必要

女性部 山中代議員

トの導入、生成AI活用といった業務の複雑化など、非常に厳しい状況が続いています。私たち教職員は、仕事だけでなく、育児や介護といった多面的な役割を担いながら奮闘されている方が少なくありません。大障教女性部のスローガンは、「集まれば元気、語り合えば勇気」です。一人で悩めば行き止まりに感じることが、仲間と語り合うことで「自分だけじゃない」と前を向ける。その連帯の力こそが、女性部の最大の強みです。子どもたちが笑顔で過す

生活面から子どもの成長と発達を支える寄宿舎

寄宿舎教員部 井原代議員



大会議案書には「寄宿舎」という言葉が数多く記されています。私は一年を通して議案

うな場所なのか十分に理解されていない現状を改めて実感しました。一方で、寄宿舎がない支援学校の教職員から「ぜひ自分たちの学校にも寄宿舎をつくってほしい」という声もあり、その必要性を強く感じています。寄宿舎は学校や保護者と連携しながら、生活面から子どもの成長と発達を支える大切な存在です。ぜひ寄宿舎に関心を持ち、寄宿舎指導員を見かけた際には、「寄宿舎とはどんなところですか」と

加する中で、寄宿舎がどのよ

妊娠時の負担軽減について非常勤ではなく、他市町村と同様に常勤の臨時技師にしていただくよう訴えてきたのが、おかげさまで今年から正式に決まりました。他市町村では



情報交換をすすめて、要求を訴え続けていきたい

栄養教員部 金澤代議員

臨時技師ではなく、講師(教員)として待遇を改善して採用されるといった流れもできています。今後も引き続き周辺の状況をみて訴えていきたいです。あまり近況を知らない栄養教諭もたくさんいますので、お困りの方がいたら、ぜひ各分会でもお声掛けください。今後は栄養教諭も他の先生方も一緒に誘い合わせて参

みんなで考える教育のつどい

《日時》9月5日(土)9:30~16:30

《会場》たかつガーデン

記念講演

「学びの主人公は子ども」～子どもの気持ちやわがいを大切に～

講師：宮本 郷子さん(立命館大学講師)

分科会 実践レポート発表と交流を予定しています。

- ①子どもが輝く授業・学級・集団づくり
(ことば獲得期までの子どもたち)
- ②子どもが輝く授業・学級・集団づくり
(教科・教科入門までの子どもたち)
- ③青年期の教育と進路
- ④学校づくり・地域づくり

参加費無料、どなたでも参加できます。詳細はチラシをご覧ください。



申込みフォーム